

ふるさと宍粟観光基本計画（第3次） 骨子

1. 計画の概要

目的及び基本理念

観光立市の実現に向け、活力ある地域づくり、交流人口の拡大、市経済の持続的な発展及び市民生活の向上に資することを目的とする。

観光立市は、国際社会の共通目標である SDG s の理念を尊重し、次に掲げる事項を基本として、市、市民等、観光関連事業者及びその他事業者の創意工夫と協働による取組により、その実現を図る。

- (1) 地域の歴史、文化、伝統等を理解し継承を行い、観光者に対するおもてなしの心とふれあいを通じて、市民及び観光者が宍粟市を「ふるさと」と感じることでできるまちづくりを行うこと。
- (2) 自然及び歴史とつながりの深い観光資源の保全を図り、それらを最大限に活用するとともに、特徴あるサービスを提供できる環境を整備すること。
- (3) 観光振興の担い手となる人材の育成、雇用の増大等による持続可能な観光地を形成すること。
- (4) それぞれの主体が継続的に観光振興に係る取組の評価と改善を行い、サービスの向上に努めること。

計画の役割と位置づけ

上位計画である「第2次宍粟市総合計画」がめざすまちの将来像「人と自然が輝きみんなで創る 夢のまち」の実現に向けて、様々な観光施策を展開している。

次期計画では、コロナ禍等で変化する新しい観光ニーズに対応しつつ、「第2次宍粟市総合計画後期基本計画及び第2次宍粟市地域創生総合戦略」との整合も図りながら施策を定める。

計画期間は、令和5年度～令和9年度までの5年間とする。

また、観光基本計画には、次に掲げる事項を定める。

- (1) 観光立市の実現に関する基本的な方針
- (2) 観光立市の実現に関する目標
- (3) 観光立市の実現に関し、市が講じるべき施策
- (4) 前3号に掲げるもののほか、観光立市の実現に関する取組を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

2. 現状と課題

日本の観光の現状

2020年の日本人国内旅行は、コロナ禍の影響により国内宿泊旅行延べ人数は1億6,070万人（前年比48.4%減少）、日帰り旅行延べ人数は1億3,271万人（前年比

51.8%減)となっている。また、訪日外国人旅行は412万人(前年比87.1%減)となっている。

今後、国内旅行においては、マイクロツーリズムの割合が増加し、旅行形態も個人旅行の割合が増加すると考えられ、「オフシーズン」「近場」「密集しない観光地」「自家用車利用」等の新型コロナウイルスの感染予防を重視した傾向がある。コロナ前からのコト消費の伸びに加え、3密回避が求められることもあり、キャンプなどアウトドアへの需要が高まっている。

国際観光動向については、ワクチンの普及等により、国際観光客数の回復が見込まれている。

兵庫県の観光の現状

2020年の日本人と訪日外国人の県内宿泊者数は、1月から11月までの累計で787万人と、前年同期比59%となっている。3月以降、訪日外国人の宿泊者がほぼゼロとなる一方で、日本人の宿泊者は前年同期比で、64%となっている。高付加価値の着地コンテンツ開発やコンテンツをつなぐ旅行商品造成と流通販売機能の整備などに取り組むとともに、インバウンド需要が大きく減少する中、マイクロツーリズムや兵庫の「食」のポテンシャルを活かした国内観光の新たな可能性を検討する。

宍粟市の観光の現状

宍粟市の観光入込客数は、2020年度に773,862人(前年比20.9%減)となっている。減少の主な理由は、度重なる自粛やイベントの中止などが大きく影響している。

国全体に比べ減少率が低いのは、キャンプ等のアウトドアへの関心の高まりと、積雪によるスキー客の増加(2019年度は暖冬によりスキー客が少ない)が理由と考えられる。

宍粟市の課題

課題として、宍粟市のイメージを明確にできていないということがあげられる。「自然」「発酵」「歴史」等の宍粟市の強みを明確化することで、それぞれの強みに合わせてターゲットを絞り、PRをすることで、効果的に誘客することが可能となる。また、近隣の施設間での連携を推進することにより、宍粟市内での回遊性を高める必要がある。そのため、市内外へPRをしっかりとできるように、情報の収集と発信をしっかりと行える仕組みが必要である。

ウィズコロナ、アフターコロナにおける課題としては、キャンプ等アウトドアアクティビティ需要の高まり、自家用車の利用率の上昇、マイクロツーリズム化、目的地や旅行日程の分散化など、宍粟市にとって、ポジティブな変化を観光業の回復につなげることが求められる。また、長期展望に立ち、デジタル化への対応と併せて、インバウンドへの対応等も視野に入れ計画を進める必要がある。

そのため、今まで以上に、近県及び県内を中心に多様な媒体を活用した市の魅力の効果的発信が求められる。

3. 観光まちづくりの目標及び基本方針

目指す観光の将来像

最大の観光資源である豊かな森林資源や宍粟の悠久の歴史と発酵のふるさと、日本酒発祥の地等、宍粟市特有の地域資源を活かしたまちの魅力づくりによって、関係人口・交流人口が拡大し、観光産業のみならず地域経済全体で雇用創出が図られるなど、観光が森林、文化、産業と融合し、地域が活性化した賑わいのあるまちをめざします。旅行者にとっては日常から離れて自らを開放できる「ふるさと」となり、市民にとっては大切に育みながら子どもや孫へと承継する「ふるさと」となること、それが観光を通じて目指すべきまちの将来像と言えます。その将来像の実現のため、次のとおり観光まちづくりの方針を定めます。

観光まちづくりの方針

- ・ふるさとを守る
- ・ふるさとを伝える
- ・ふるさとを活かす
- ・ふるさとを育む
- ・ふるさとを高める

上記を基本方針と定め、観光まちづくりを推進するにあたり、次のとおり目標を定めます。

観光まちづくりの目標

- ・観光入込客数の増加
- ・観光消費額・経済波及効果の拡大
- ・宍粟市の知名度向上
- ・観光客の満足度向上
- ・市民の満足度向上

上記を目標として定め、目標を達成するために、次の取組を行います。

4. 具体的な取組

・観光資源の有効活用

観光地としての魅力向上と国内外からの誘客を図るため、観光資源の開発、機能強化とネットワーク化を推進します。

・体験型ツーリズムの推進

豊かな森林や美しい農村景観など、宍粟市ならではの地域資源を生かした体験型観光を推進します。

・観光客受入体制の充実

観光事業を担う人材の確保及び育成を行うとともに、集客向上に向けた取り組みを展開します。

- ・ **魅力の発信の強化**

知名度向上と観光集客力の強化のため宍粟の魅力を効果的・戦略的に発信します。

5. 宍粟の観光推進体制

必要な機能と役割

「しそう観光プラットフォーム」の機能

- ・ 多様な主体の参画及び連携の促進
- ・ 情報共有のための仕組の提供
- ・ 交流及び協議のための場の提供
- ・ 情報発信の一元化

「しそう観光プラットフォーム」の役割は、官民の垣根を乗り越え、住民と来訪者を観光により直接繋ぎ、それぞれの満足度を最大限に高めていく地域主体の「観光マネジメントの場」であることです。

推進体制の概要

持続的かつ円滑な取組を進めるための基盤として、「しそう観光プラットフォーム」を推進する。推進体制の整備を行い、PDCA サイクルをしっかりと確立できる運営体制を目指します。